

灼炎の傭兵団長

ジュリア

屈強な肉体と轟く怒号で傭兵団をまとめる女団長。ノウェール王国史上最も血生臭い時代を体一つで成り上がった。しかし…

命を数字で勘定する貴族達の果てしない権力闘争を目の当たりにした彼女は

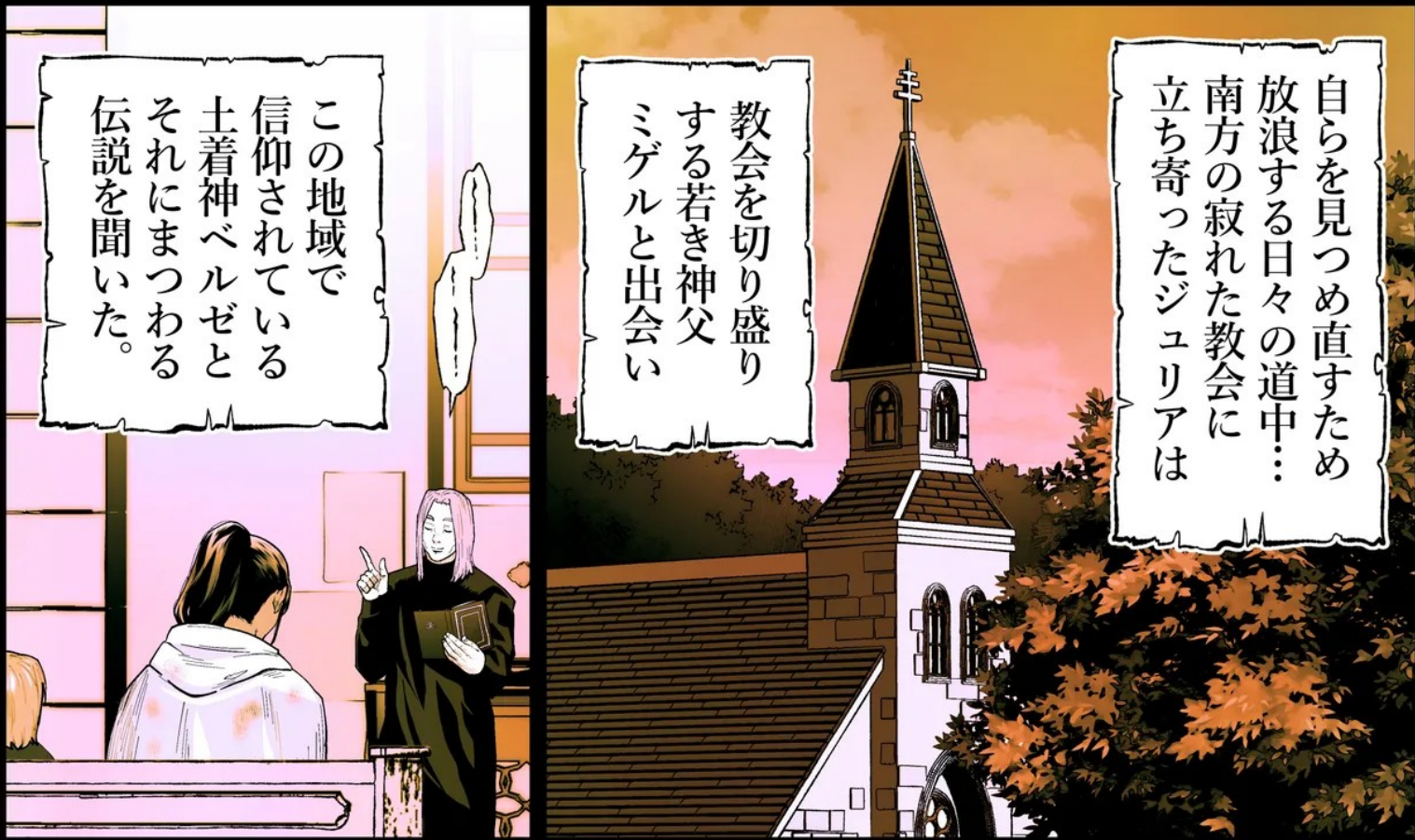
終戦を機に団を抜け王都から姿を消した…



自らを見つめ直すため  
放浪する日々の中で…  
南方の寂れた教会に  
立ち寄ったジュリアは

教会を切り盛り  
する若き神父  
ミゲルと出会い

この地域で  
信仰されている  
土着神ベルゼと  
それにまつわる  
伝説を聞いた。



### 「蠅の王ベルゼ」

かつて世界を支配  
していた太陽の神は  
腐敗と死を忌避して  
大地を閉ざした。

その結果、地上から  
命の循環が失われ  
大地は枯れ果てた。

地底から現れたベルゼは  
死骸に触れ、糞尿を撒き  
それらを肥やしに新たな  
大地を創ったという……



教養を感じさせる  
穏やかな説教は  
戦いに疲れ切った  
ジュリアの心を  
優しく包み込み

ちよつと  
団長〜っ

あははっ

今日もイイ音  
鳴ったなあ!!

長年、粗野な男たちと  
暮らしてきた彼女に  
一抹の羞恥心と知への  
羨望を抱かせた。



同時に

戦士として  
あるまじき  
女の疼きを  
自覚した  
ジュリアは

慌てて内腿を  
固く閉ざした。

キョウ...



そ  
そろそろ  
この地を  
去るか...

押し殺して  
きた欲望が

銀色に滴る  
煩惱となり



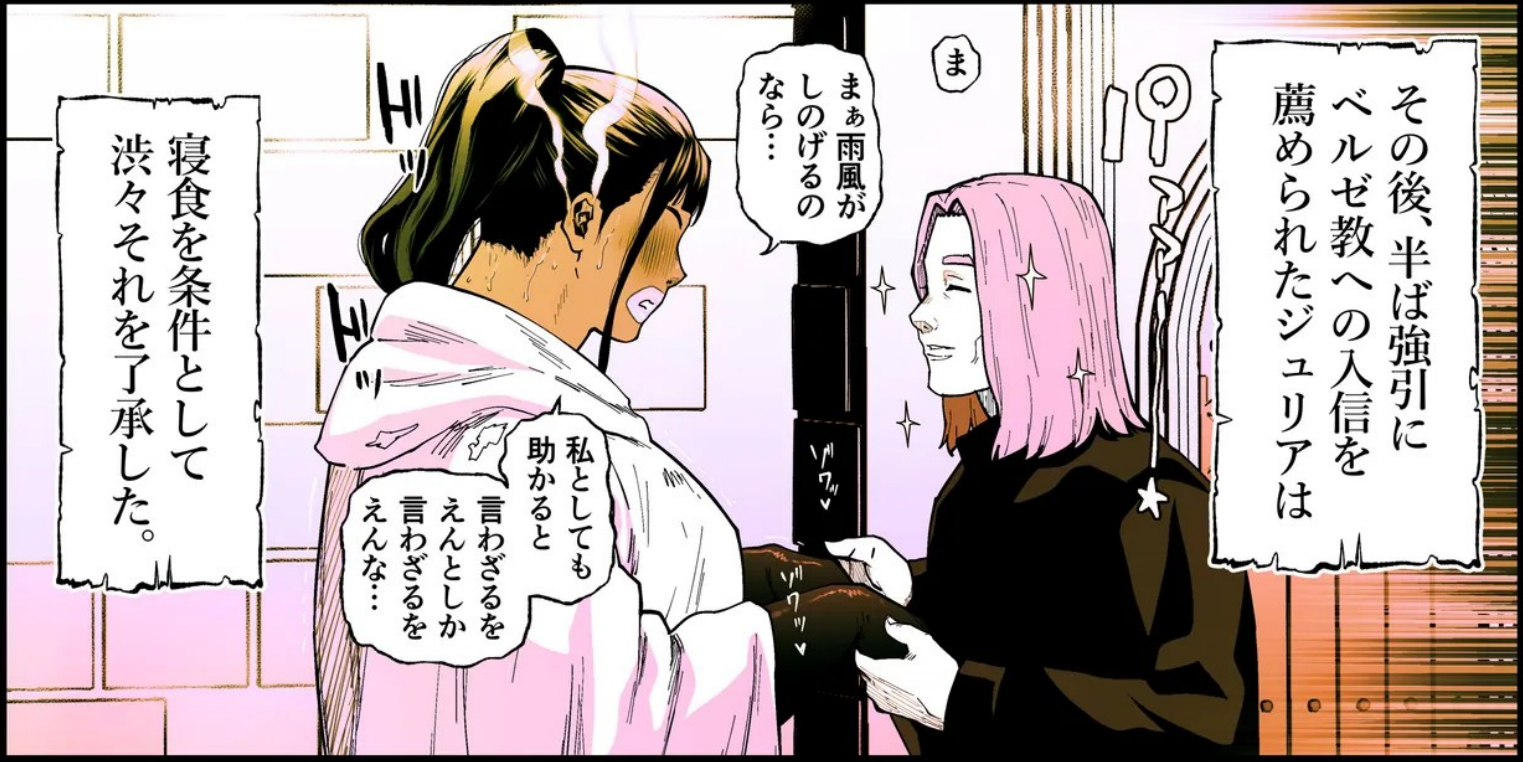
そのぶ厚い  
吻合の隅で

ぬるりと  
よろめいた。



遠い昔に  
捨てた  
女の幸せ...





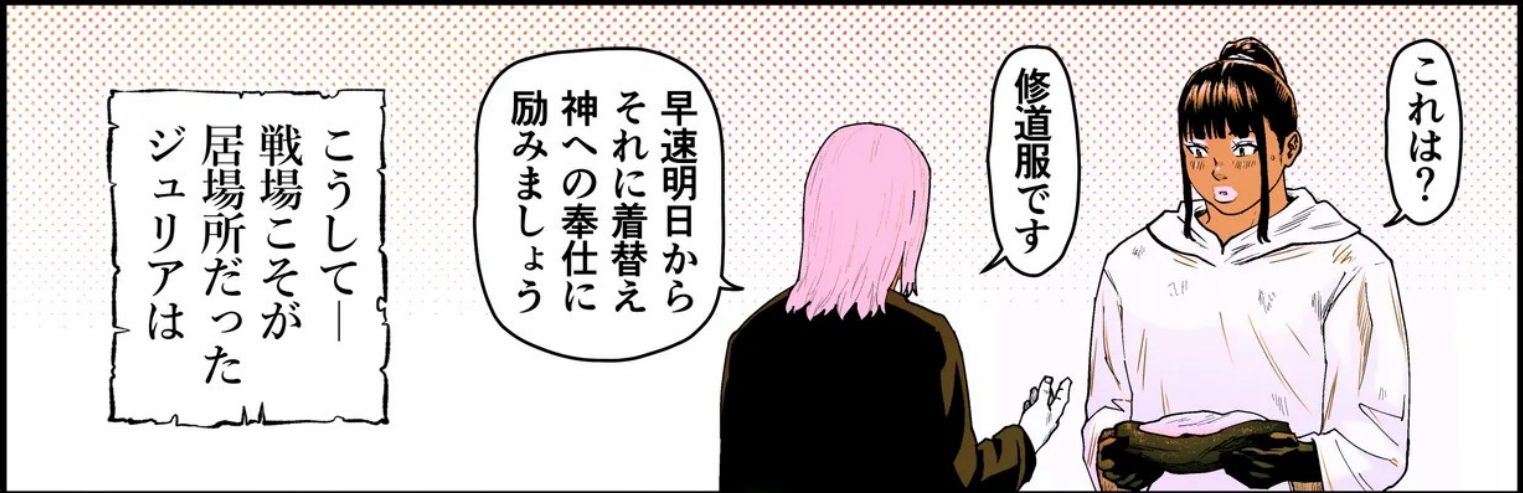
その後、半ば強引に  
ベルゼ教への入信を  
薦められたジュリアは

まあ雨風が  
しのげるの  
なら...

ま

私としても  
助かると  
言わざるを  
えんとしか  
言わざるを  
えんな...

寝食を条件として  
渋々それを了承した。



これは？

修道服です

早速明日から  
それに着替え  
神への奉仕に  
励みましょう

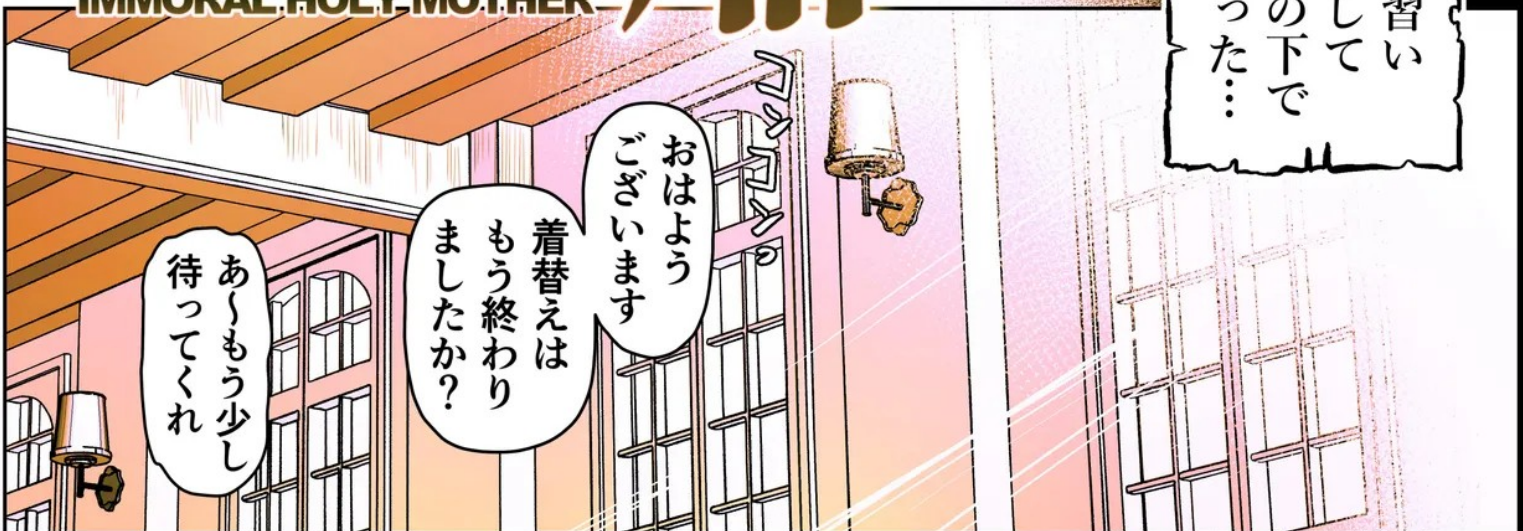
こうして—  
戦場こそが  
居場所だった  
ジュリアは

# 聖肛ノ焰

IMMORAL.HOLY.MOTHER

第一話

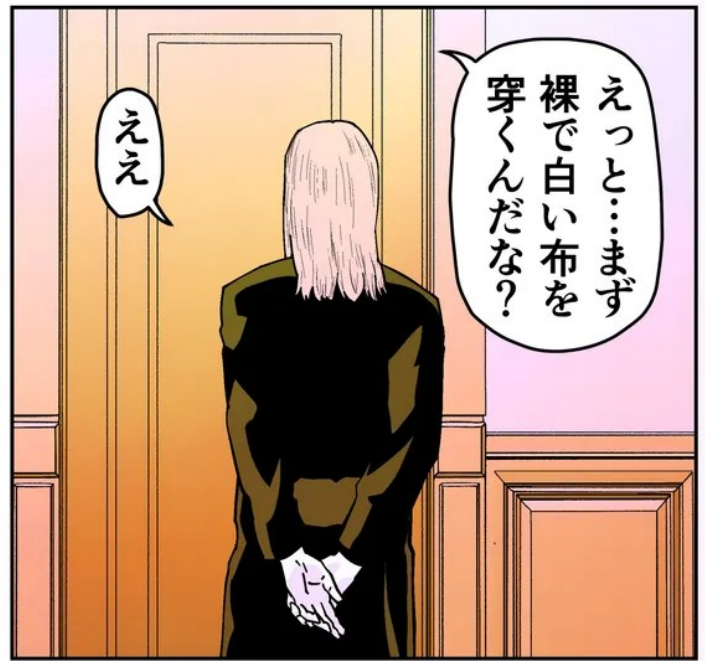
一時的に見習い  
シスターとして  
神父ミゲルの下で  
働く事となった...



おはよう  
ございます

着替えは  
もう終わり  
ましたか？

あ、もう少し  
待ってくれ





す、すまん  
待たせたな

綺麗ですよ  
ジュリアさん

かああ...

ハハ...

数え切れぬ人間を  
殺めてきたこの私が...  
見習いとはいえ聖女と  
同じ装いをするなんて  
人生何が起こるか  
分からんな...ふふ。

だがしかし...

羽織るものがある  
と助かるんだがな...

そわ...  
そわ...

その...

ケ、ケツが丸見えで...

ムキムキムキムキ

ふりゅっ

はは、何を仰います

善き聖女とは

常に生身の尻を  
外界に晒しながら  
生活するものです

なッ!?

聖なる部分を  
布で隠すなど

神への冒瀆に  
他なりません

お尻の穴...♡

し、しかし

その...

ケツの穴まで  
見られては  
たまらんぞ...

心配なさらずとも  
ジュリアさんは  
立派なお尻を  
しておられます

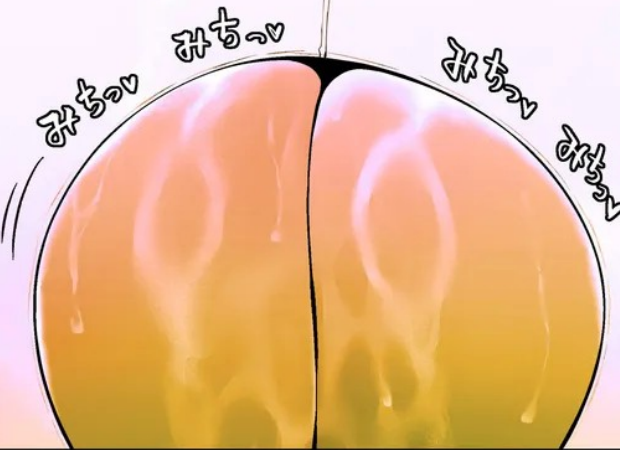
「聖器」はその深い  
尻の谷間に埋もれ

そう易々と  
見られる事は  
ありませんよ

...なるほど。

この奇妙な  
穿きものは...

尻肉を引き寄せ  
谷間を作るため  
でもあるのか...



しかし...少しでも屈めば  
たちまち性器とケツ穴が  
剥き出しになってしまう!!

ズズズ...

くはぁぁぁ

率直に言おう...

素っ裸より

恥ずかしい!!

こんな格好で人前に  
出るなんて正気か?

では礼拝堂の前で  
参拝者をお出迎え  
いたしましょう

この身体の芯から  
燃え上がる羞恥が  
神から与えられた  
試練だというのか!?

ツ...

ヒッ...

ヒッ...

ヒッ...

ヒッ...

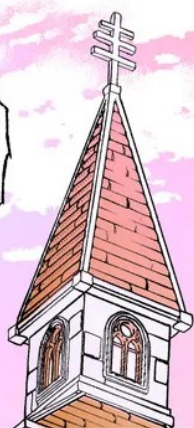
上等じゃあ  
ないかア!!  
傭兵団長の  
名に懸けて  
この試練  
乗り越えて  
みせよう!!

ヒッ...

ツ...

ヒッ...

ヒッ...





肩を貸しま  
しょうか？

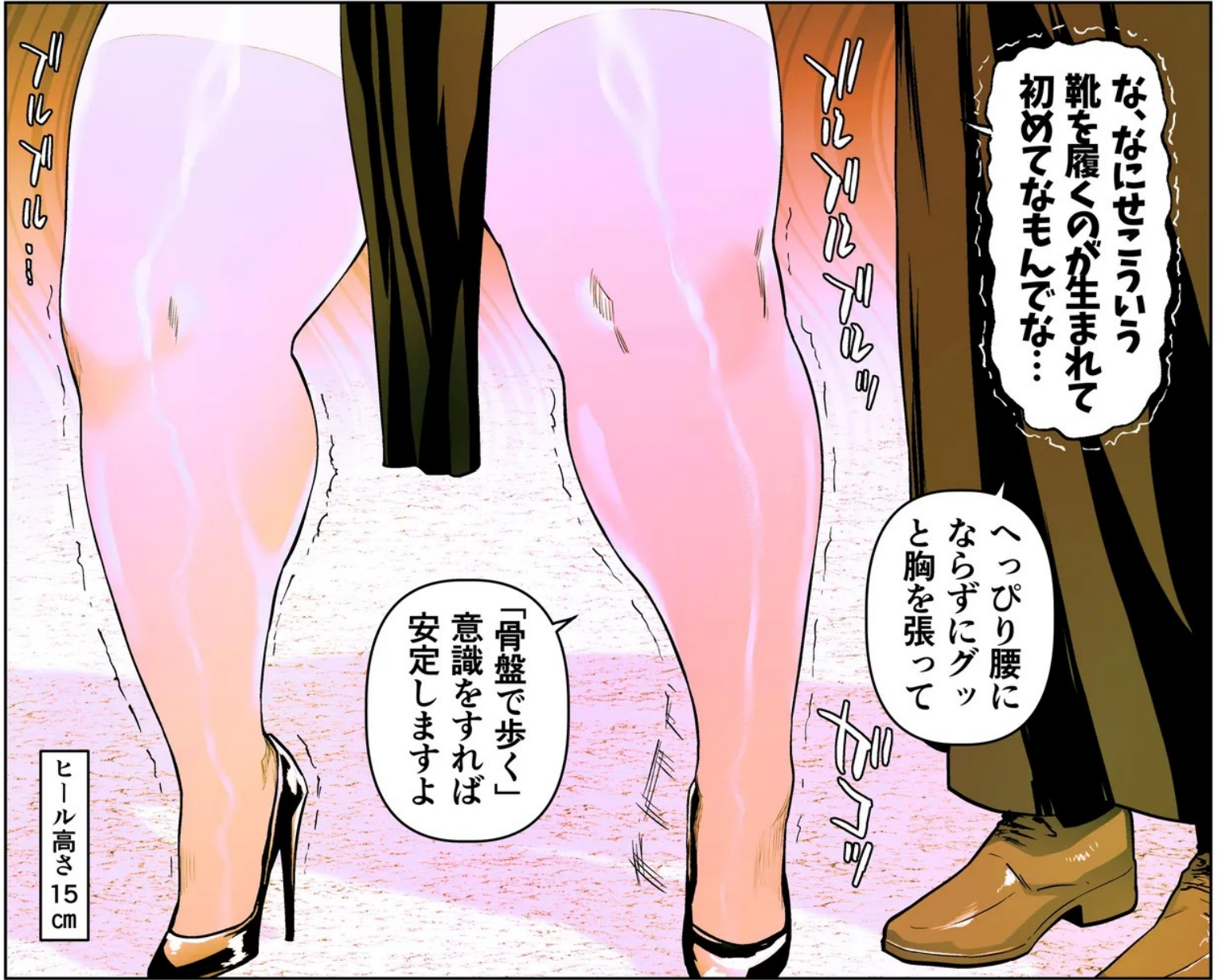
……

ああ…  
すまん

あ

キラキラ

キラキラ



なにせ、こういう  
靴を履くのが生まれて  
初めてなもんでな…

へっぴり腰に  
ならず、グッ  
と胸を張って

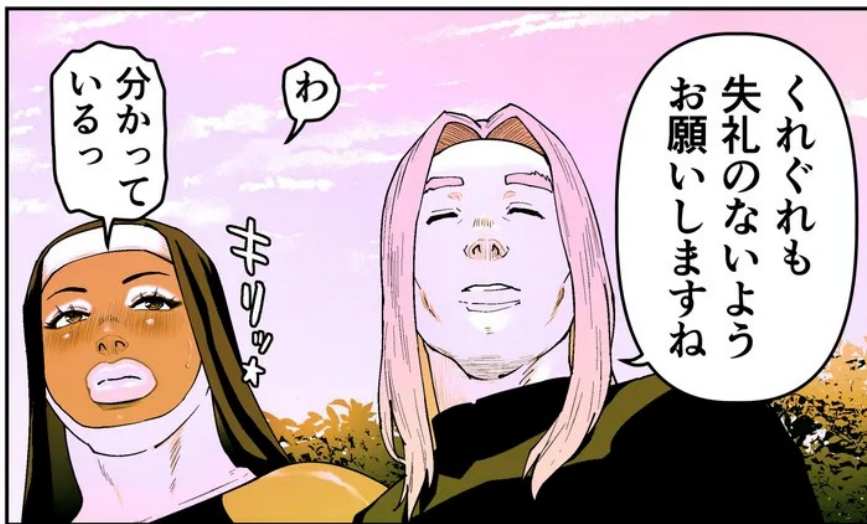
「骨盤で歩く」  
意識をすれば  
安定しますよ

ヒール高さ  
15cm

キラキラ

キラキラ

ガッ

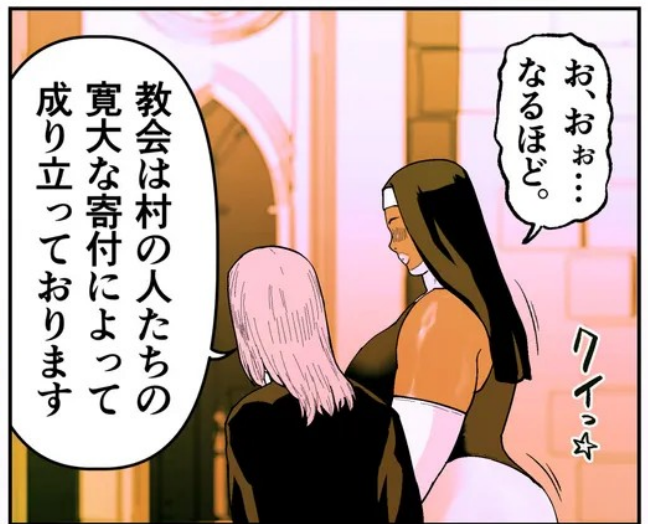


くれぐれも  
失礼のないよう  
お願いしますね

わ

わ

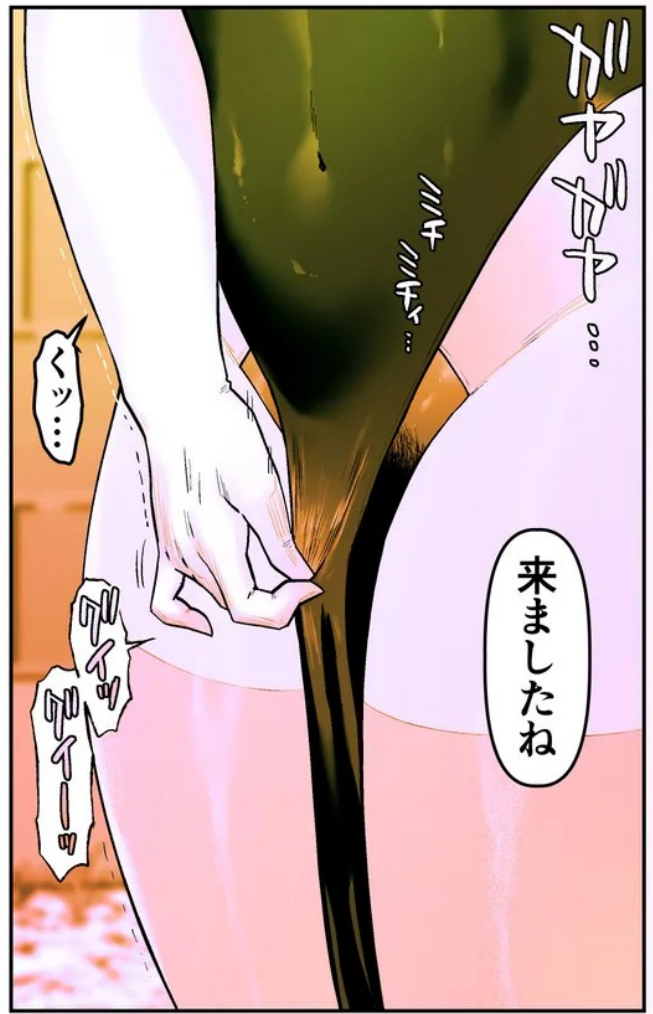
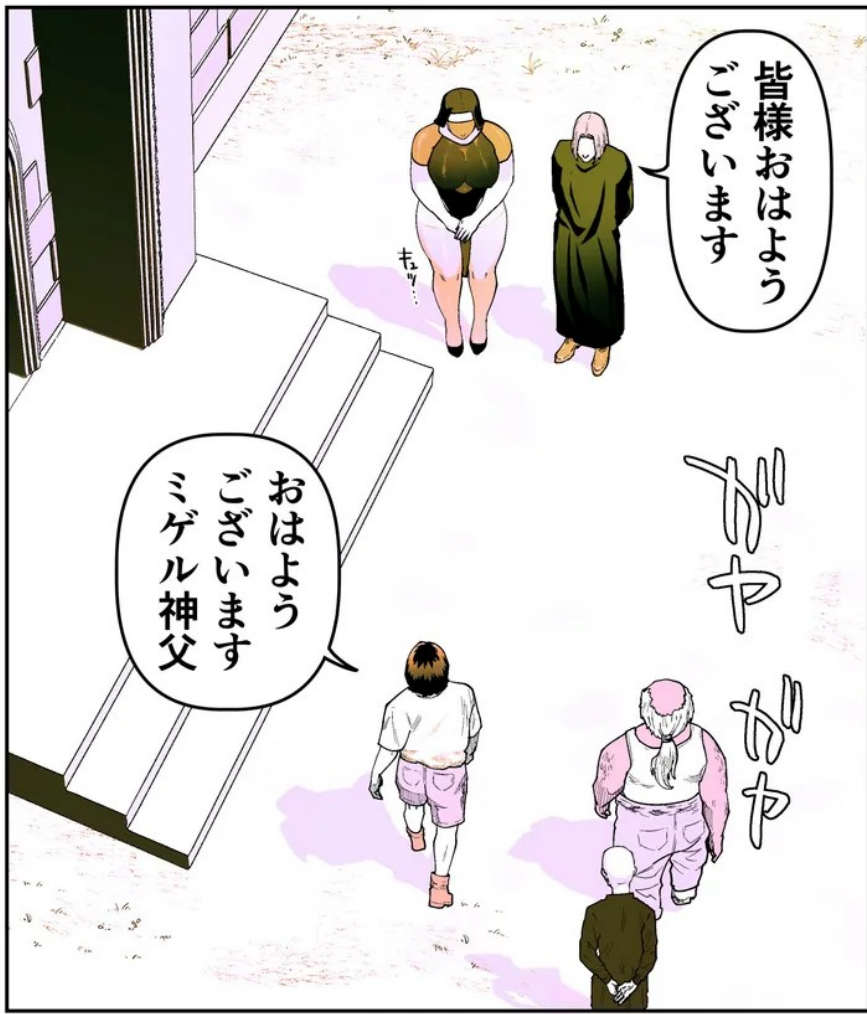
キラキラ

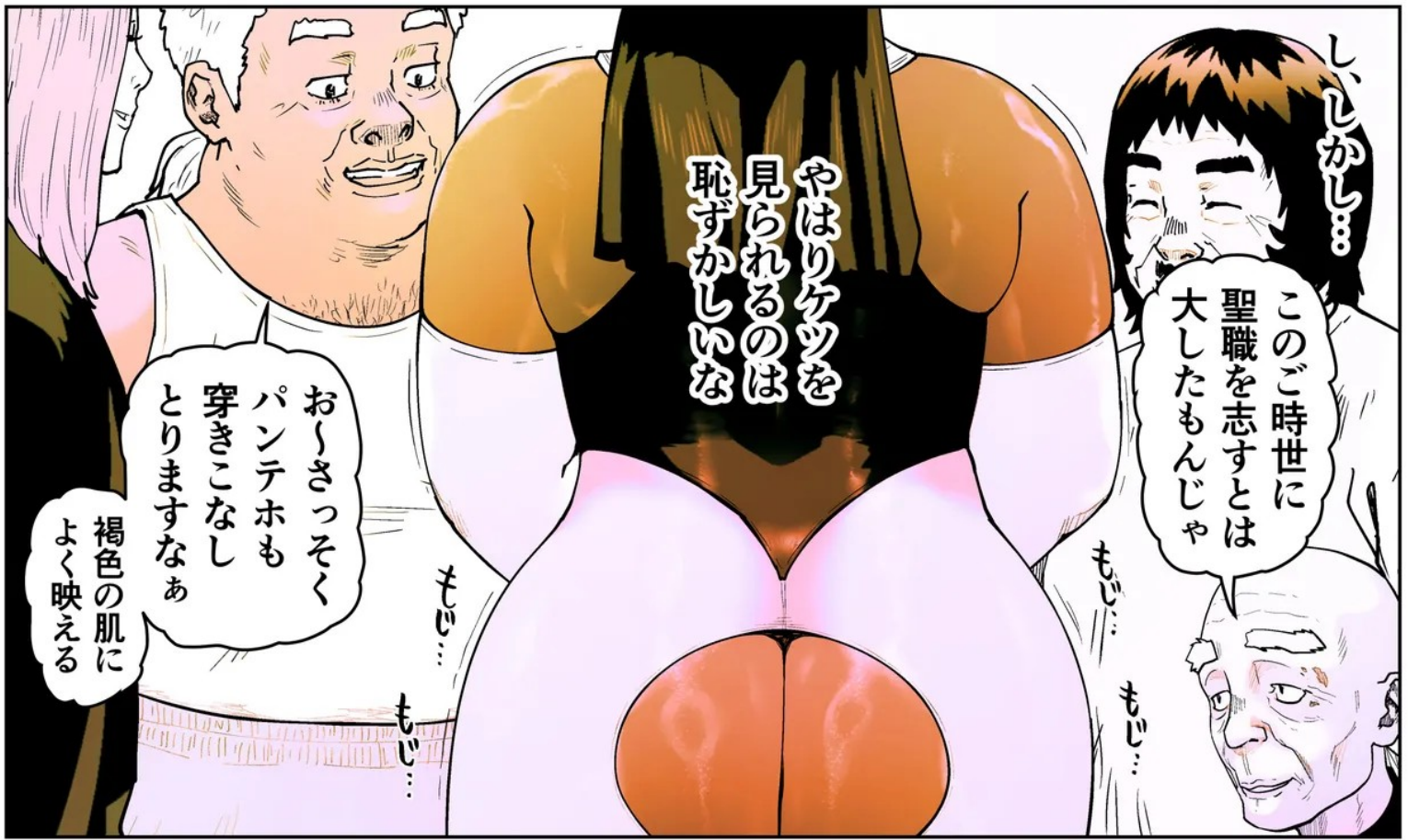


お、おお…  
なるほど。

教会は村の人たちの  
寛大な寄付によって  
成り立っております

クイッ☆





し、しかし…

このご時世に  
聖職を志すとは  
大したもんじゃ

やはりケツを  
見られるのは  
恥ずかしいな

おっさつそく  
パンテホも  
穿きこなし  
とりますなあ

褐色の肌  
によく映える

もい…  
もい…

もい…  
もい…



ジュリアさんは  
お尻も大きくて  
ご立派なんですよ

なッ…

おお!!ベルゼの  
聖女様といえは

尻のデカさが  
何より重要  
だからのおっ

かあぁ…



さあ  
ジュリアさん  
後ろを向いて

ッ!!?

聖女の矜持  
でもある

立派な「谷間」を  
皆様にも見て  
もらいましょう

くッ…

別に…  
大した事  
じゃない  
だろ…

おっ…

おっ…

おっ…

たかだかケツを  
見せるくらい何だ  
か弱い乙女じゃ  
あるまいし…

それにこの姿は信仰に  
基づいているわけで…  
恥じらう事自体が  
信者への非礼に当たる  
のではないか？ そうだ  
これから世話になる  
神父を失望させる  
わけにはいかんッ!!

あ、ああ

分かった…

フム…

おおおお

何という  
谷の深さ!!

素晴らしい  
厚みだ!!

わしゃこれほど  
見事な尻の聖女  
初めて見たぞ!!

ゆ、揺れ  
とる…

たまらん…

べ、別に…

よくある尻  
だと思いが…

黒光りが  
美しい…

ああ…  
美しいな…

「美しい」

誰かがそう  
呟いた瞬間

ふふふ  
ふふふ

ぐふふ  
ぐふふ

ふふふ  
ふふふ

ふふふ  
ふふふ

ふふふ  
ふふふ

ふふふ  
ふふふ

ふふふ  
ふふふ

ジュリアは今まで感じたことのない甘い高揚に思わず身震いした。



—彼女は長年  
傭兵団長として  
その黒く強靱な  
体軀を誇らしく  
思いながら

同時に女としての  
「美」を遠ざける  
無骨な呪いのよう  
にも感じていた。

全身を覆う逞しい筋肉と  
煤のように黒々とした肌は  
貴族の女たちの白く細く  
洗練された体型に比べて  
劣等の印のようにも思われ

クスクス：  
見てあの体

やだあ〜

女がああ  
なあっては  
お終いよ

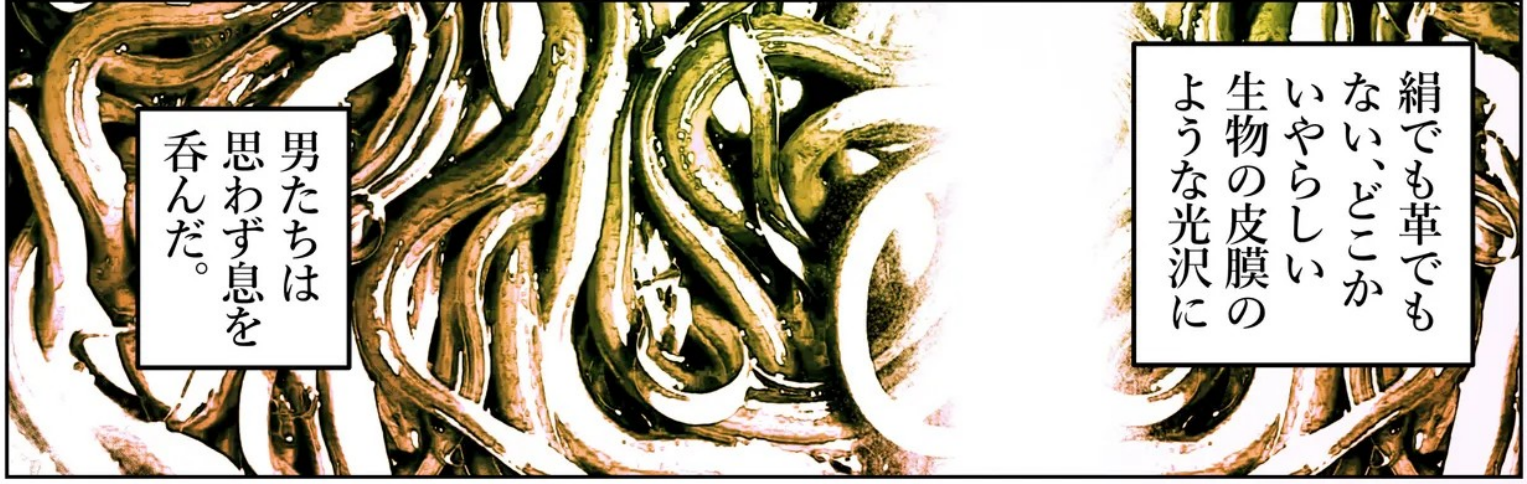
この  
傭兵さん  
らしいわ

やっぱり血は  
大事ねえ〜

野蛮な戦闘部族  
という出自を  
否応なく彼女に  
突きつけてきた。


…その劣等感に  
まみれた肉体に  
浴びせられる  
感嘆の眼差し。

室内では気に  
ならなかった  
パンテホが  
太陽の下で  
さらに力強く  
輝き始めた。



絹でも革でもない、どこかいやらしい生物の皮膜のような光沢に


男たちは  
思わず息を  
呑んだ。



光沢は四頭筋に沿って  
粘りつくように密着し  
押し返すように脈打ち  
筋肉の微細な動揺すら  
余す所なく映し出す。

ああ…

ニキニキ…



何だこの  
光沢は…

乾いた朝の日差しの中で  
ジュリアの下半身だけが  
濡れたように艶めかしく

こんなにスベスベ  
してるのに…

光沢は一点に留まることなく  
絶えずヌラヌラと滑り続ける。

戸惑い、足元がよろけるたびに  
膝から腿、腰肉へと連なる曲線が  
油ギツシユに這いずり回った。

たまらん…

たまらんっのう…

背後から浴びせられる視線と囁き…  
それはかつてのような嘲笑ではなく  
称賛と、猥褻な熱気に満ちていた。  
今まで向けられたことのない  
欲情的な眼差しにジュリアは…

初めて自分の脚を  
「いやらしい」と思った。

この時—

うう…  
ふう…

ふんふん…

抑圧してきた承認欲求をくすぐられた女戦士が暗い沼のように陰気なため息を吐き出すのを神父の耳は確かに捉えた。

彼はそれを—  
世にも淫靡な  
マゾヒストの  
産声ときいた。

トシ…  
褐色の尻は  
たまらん

トシ…  
おっぱいも  
デカいし

トシ…  
おっぱいは  
商店街の  
ローラも  
最高だよな

トシ…  
ローラは  
ケツが  
物足りん

確かに

ははっ

チチだのケツだの…  
女の身体を勝手に  
格付けしやがって

—これだから男って奴は!!

モウ♡

モウ♡

おお♡



屈強さと妖艶さが矛盾なく同居する光沢…

トワ…

トワ…



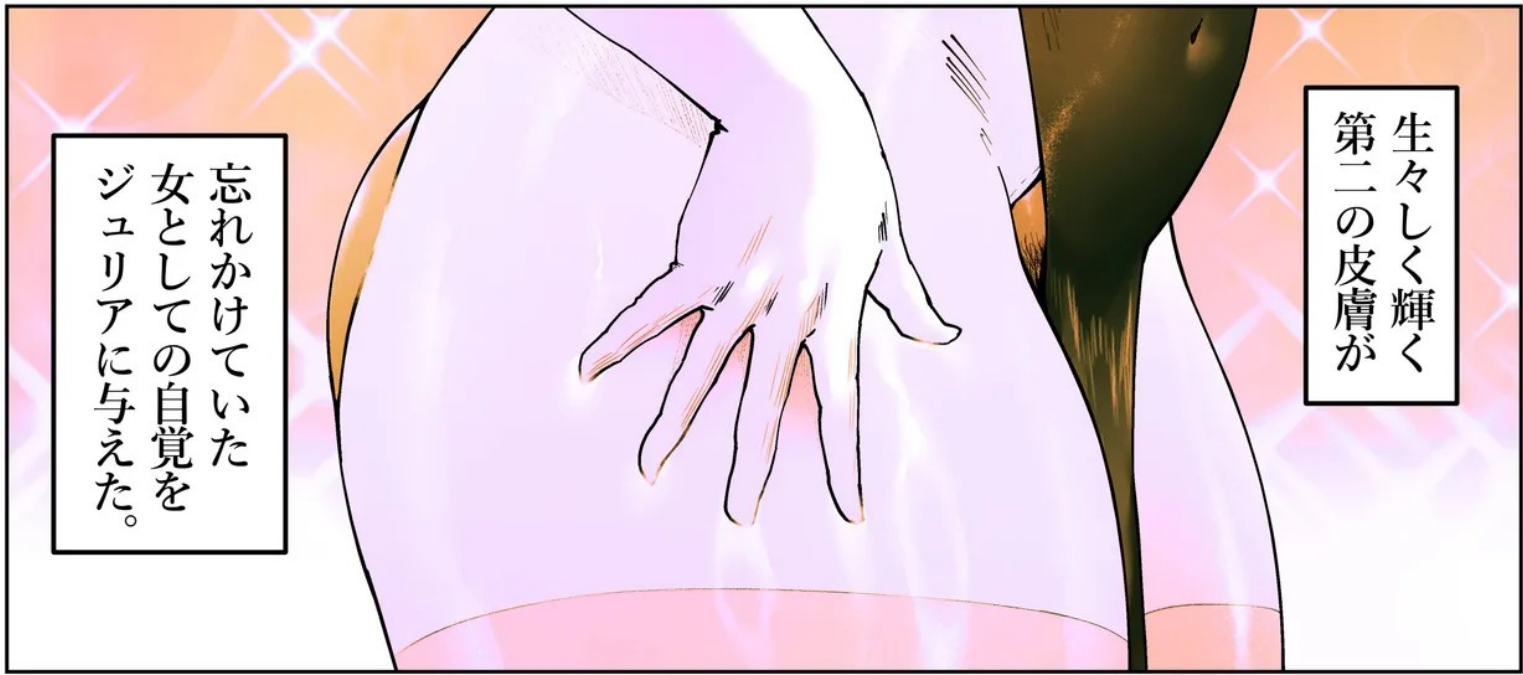
はいはい皆様っ艶やかなお尻にいつまでも見惚れてないで

礼拝堂へお入りください

お、おお…そうだな

礼拝がまだじゃったわ

はは…



生々しく輝く第二の皮膚が

忘れかけていた女としての自覚をジュリアに与えた。



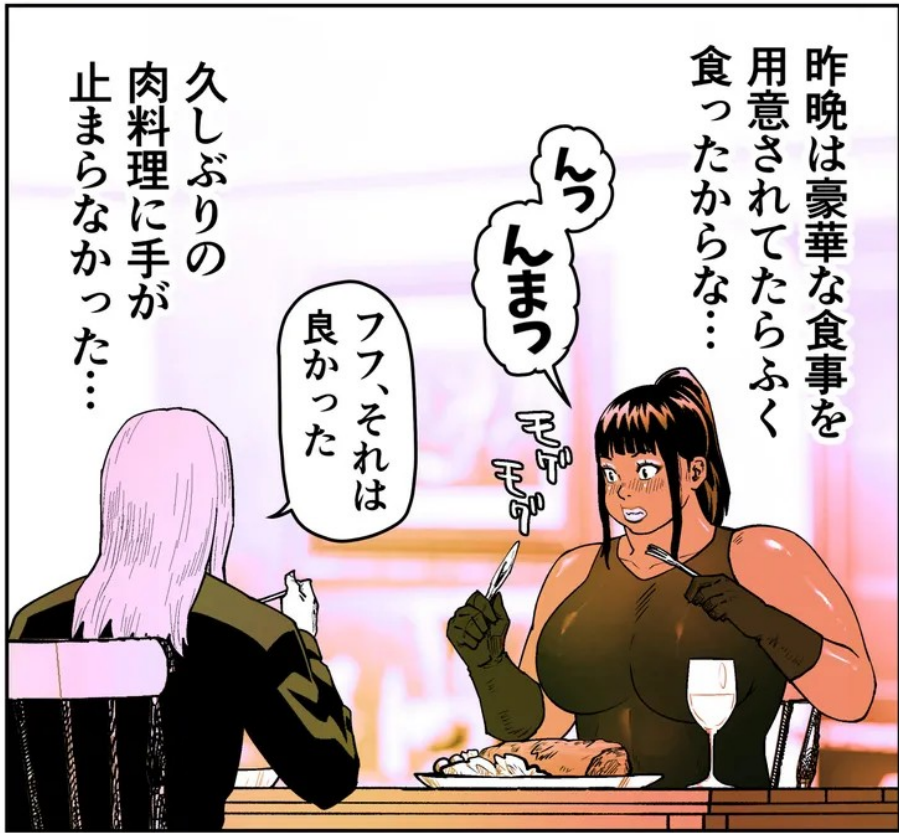
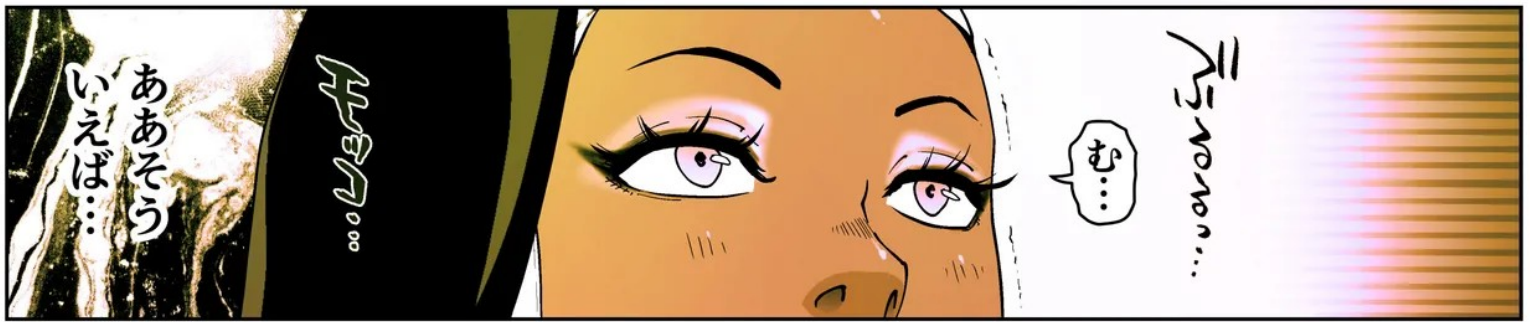
食を受けて大地に還す

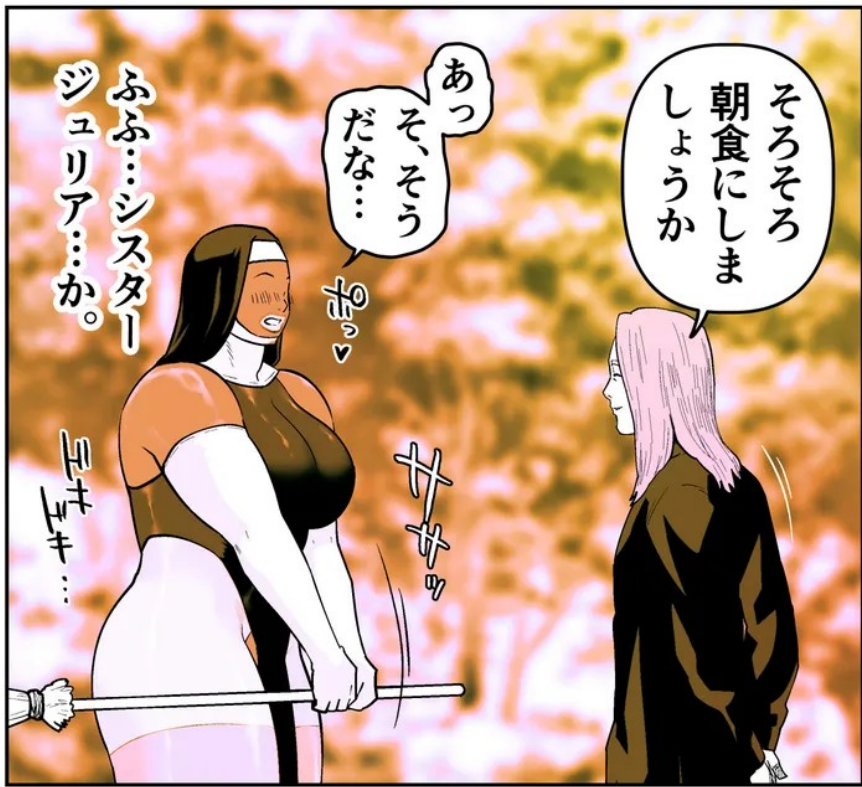
いずれも生命の輪なり…

腐敗は息吹き

穢れは賛歌に





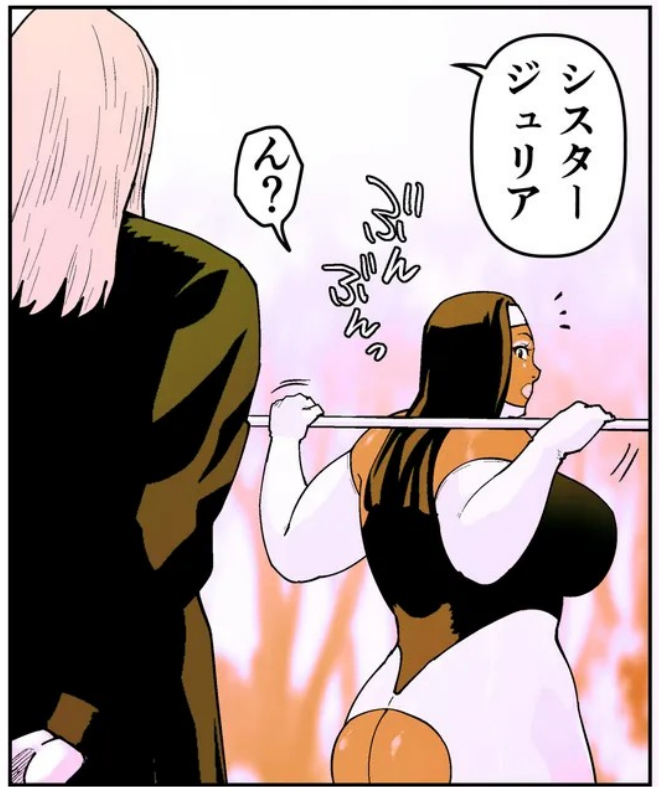


そろそろ  
朝食にしま  
しょうか

あつ  
そ、そう  
だな...

ふふ...シスター  
ジュリア...か。

フキ...  
フキ...



シスター  
ジュリア

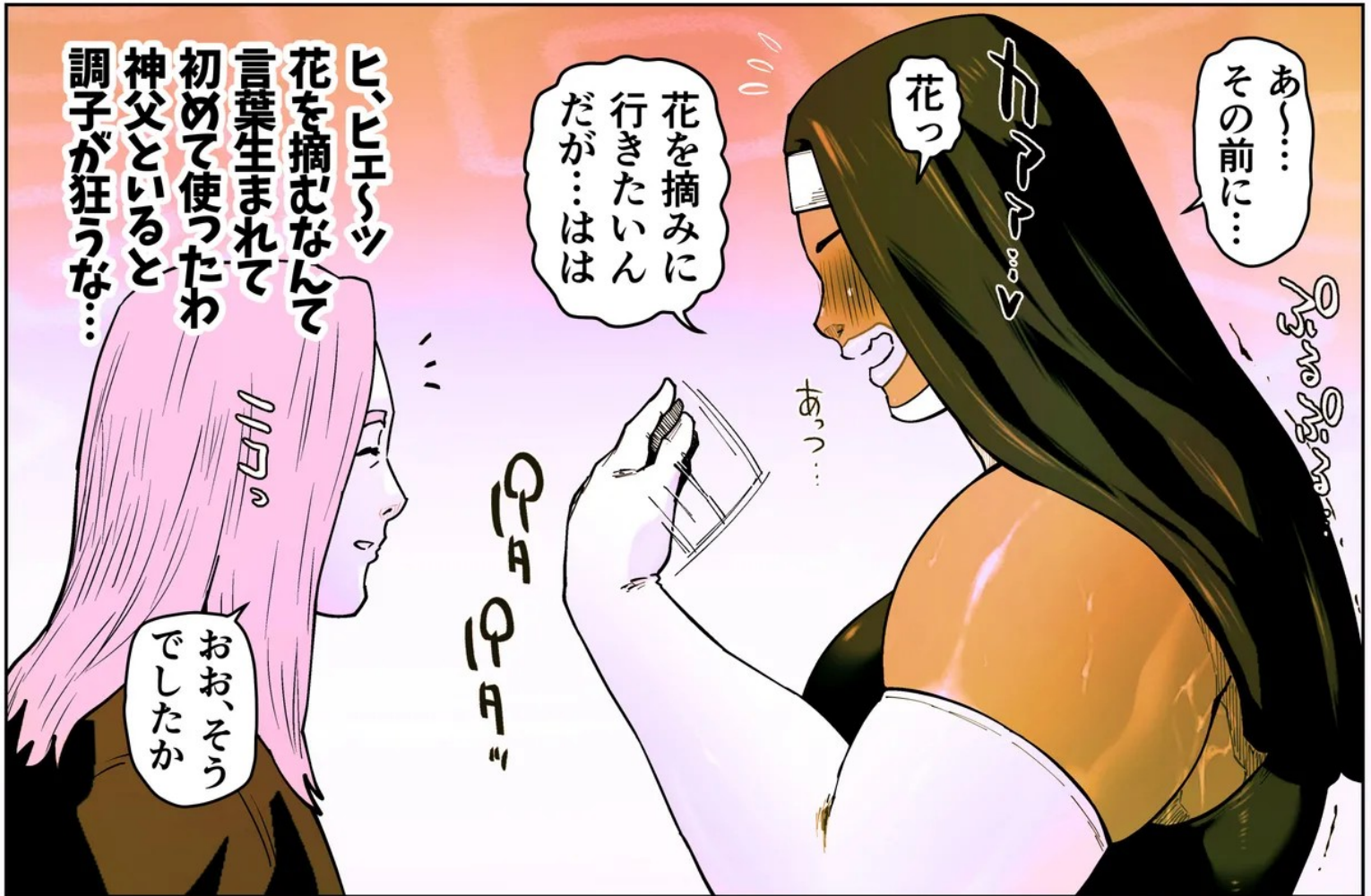
ん?

フキ...  
フキ...



では一度  
屋敷に戻り  
ましょう

ッ...



あ...  
その前に...

花を摘みに  
行きたいん  
だが...はは

ヒ、ヒエッ  
花を摘むなんて  
言葉生まれて  
初めて使ったわ  
神父といると  
調子が狂うな...

おお、そう  
でしたか

フキ...  
フキ...

花っ

あ...  
あ...



便は急げです  
さあ肛導室へ  
参りましょう

当たり前のように  
ケツを撫でるな…

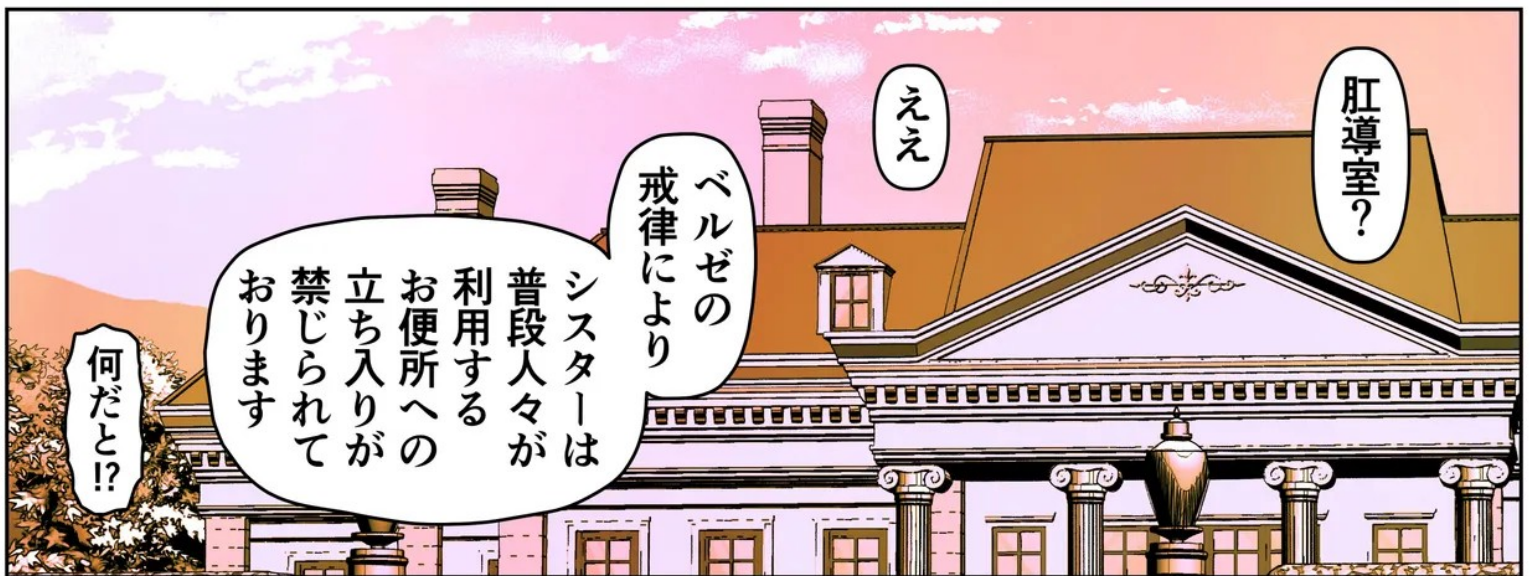


昨晚はお肉を  
たくさん食べ  
ましたからね

あはは  
まあな…

便意の疼きは  
祝福の兆候

ちよつ…



肛導室？

ええ

ベルゼの  
戒律により

シスターは  
普段人々が  
利用する  
お便所への  
立ち入りが  
禁じられて  
おります

何だと!?



聖女の糞尿は  
分解と再生を  
象徴する大切な  
供物ですので

供物…

排泄は屋敷の  
地下にある  
肛導室で行う  
事になります

排泄の他に

信肛心を高め  
悦楽排へ到達  
するための  
肉体修練など

シスターは一日の  
大半を肛導室で  
過ごす事になります

難しい事はよく  
分らんが…

信仰的に重要な  
場所なんだな

はい

艶麗な色香が溢れる  
選ばれし聖女のみが  
立ち入りを許される  
ベルゼの聖域です

そして、肛導室の管理  
及び聖女の肉体修練を  
指導して下さるのが

ミミズ豚の  
デイルドは  
そろそろ  
替え時だべ…

!!

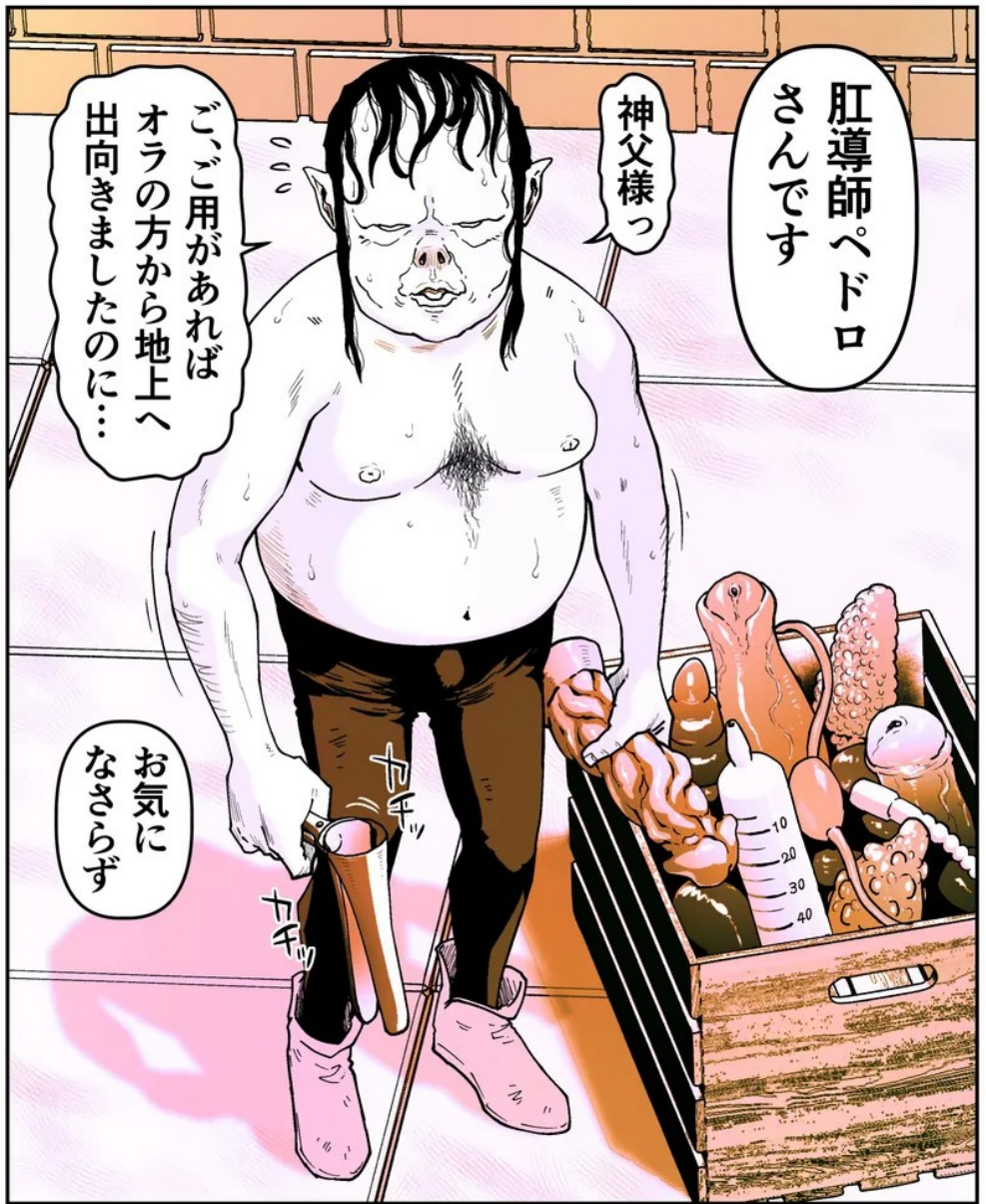
ほ  
ほお…



何と醜い  
小男だ…

忌まわしい  
ゴブリの  
血筋か…?

いんやゆ



肛導師ペドロ  
さんです

神父様っ

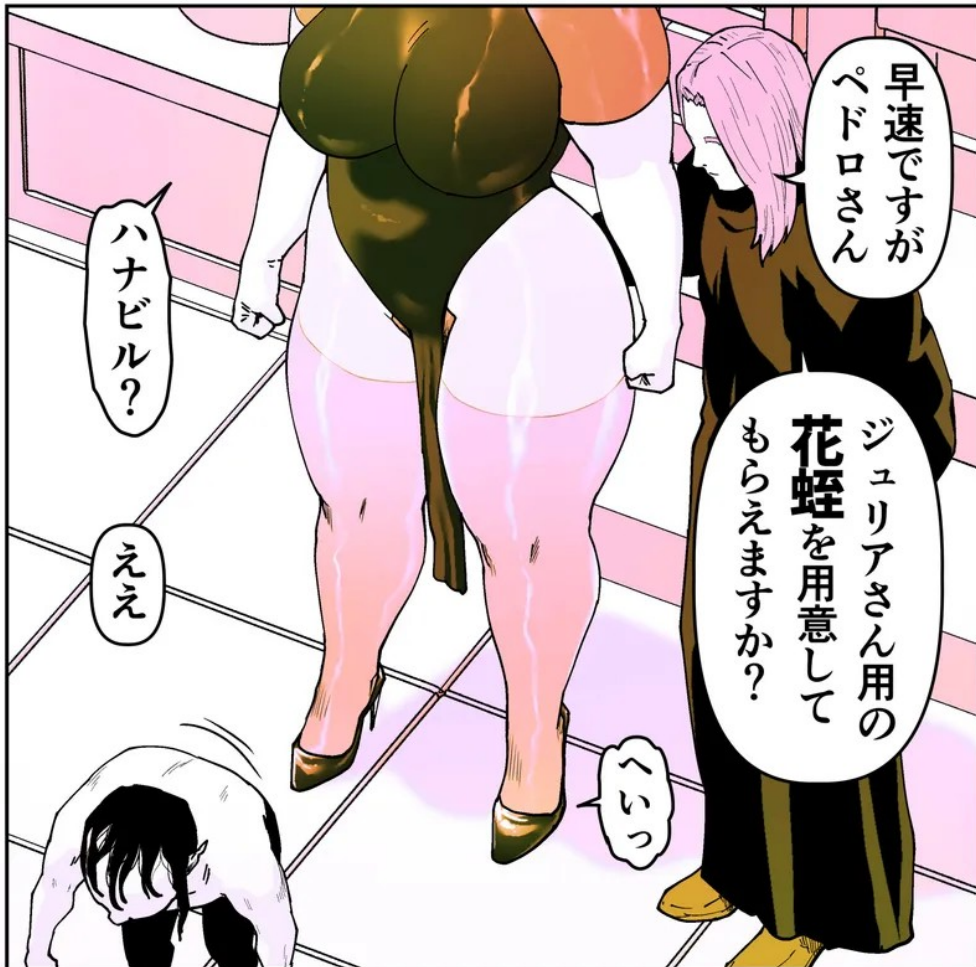
ご、ご用があれば  
オラの方から地上へ  
出向きましたのに…

お気に  
なさらず



へえ…あんたが  
新しい聖女様か  
話は聞いてたべ

あ、ああ…



早速ですが  
ペドロさん

ジュリアさん用の  
**花蛭**を用意して  
もらえますか？

ハナビル？

ええ

いっ



クッ…  
ドドドドド…



し、神父…

そろそろ  
出したい  
んだが…

おお

暗い沼地に生息する  
軟体生物の一種で

排泄の際の器として  
古くからシスターに  
重宝されてきました

器…

本来は不浄な  
生き物ですが

聖水壺の中で  
繁殖させる事で  
毒素が抜けて

ヒヒ…  
初めての  
聖女様  
には…

この子が  
ピツタリ  
だべや…

安全に利用  
できるように  
なるのです

ほう…

食管を優雅に伸ばし  
便を嚙り食べる花蛭は  
ベルゼの使いとしても  
敬愛されていますよ

ベッ…

便を嚙り  
食べる!?

はい  
花蛭の主食は  
聖女の体液や  
排泄物です

そんなおぞましい  
生物を便器代わりに?  
ソワ…ソワ…



あらゆる生理的嫌悪が凝縮した花蛭の造形は百戦錬磨のジュリアでさえ後退りさせた。

ぬばあああ...

ヒッ ヒッ ヒッ

クルルッ...

ヒッ...

クルルル...

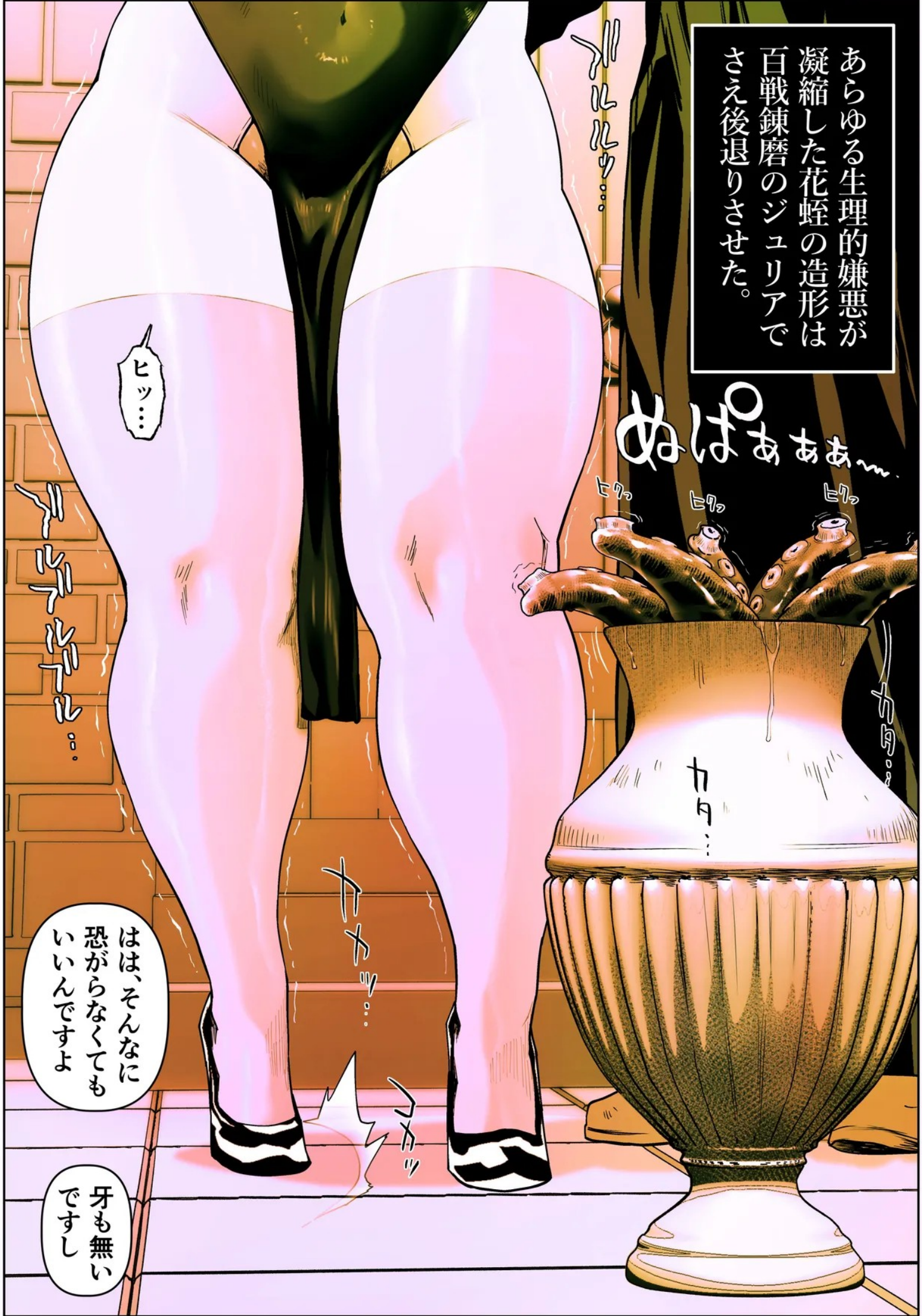
クク...

クク...

カタ...

はは、そんなに  
恐がらなくても  
いいんですよ

牙も無い  
ですし



花蛭は滋養強壯の  
食材としても  
親しまれています

寒い時期の  
お刺身が  
美味でして

おいおい……

へえ……  
生で食べら  
れるのか？

はい

食材だと思うと  
急に安心感  
湧きませんか？

ふっ……

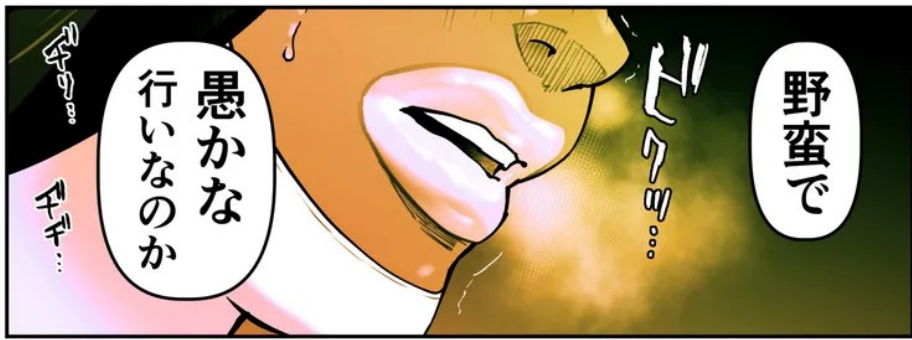
ちよつと距離が  
近すぎなひか？

そ、そんなさあ……  
恋人同士じゃない  
んだからさあ……

ああ〜  
まあな〜

それに……

あっ……



野蛮で

愚かな  
行いなのか

ヒクヒク...

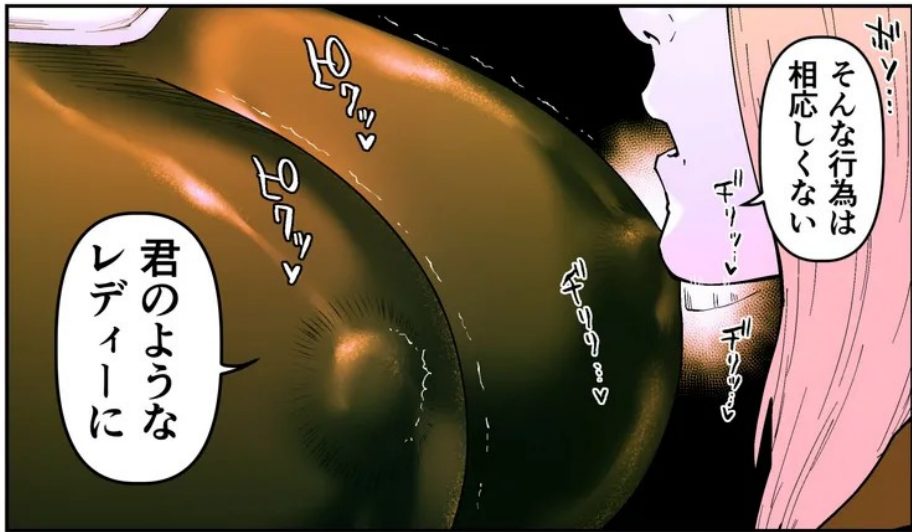
ヒクヒク...



あなたのように  
美しい貴婦人には  
分かるでしょう？

お便所で用を足す  
ことがどれだけ

ヒクヒク...



そんな行為は  
相応しくない

君のような  
レディーに

ヒクヒク...



しかし何を  
どうすれば...

何もしなくて  
いいんです

ヒクヒク...



便所は野蛮？ い、嫌だ...この男には  
野蛮な女だと思われたくない...!!

ね？

わ  
分かつ  
たよ...

...あと神父が喋るたびにアゴが  
乳首に当たってビクビクする。



ペドロ  
さん

ヒイツ

ヒクヒク...

動かないで。



んっ!!

ぞわわっ

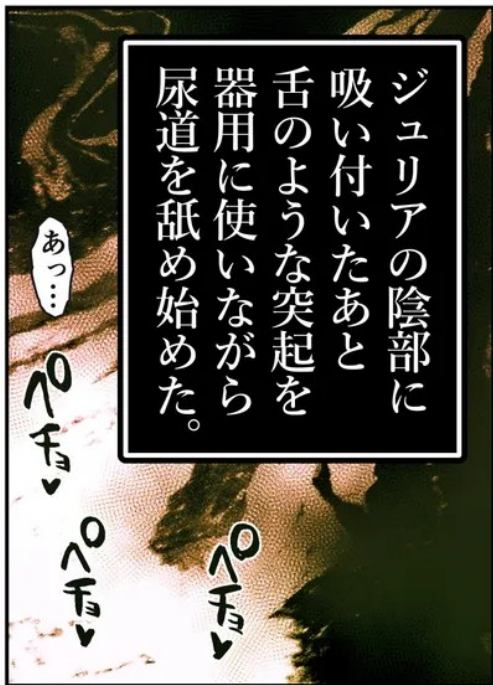


な、何だ  
コレは!?

尿管です

花蛭はその花弁から  
不気味な管を伸ばし

ヒキヒキッ  
ヒキヒキッ



あっ!!

んっ!!

んっ!!

ジュリアの陰部に  
吸い付いたあと  
舌のような突起を  
器用に使いながら  
尿道を舐め始めた。



くっくっ  
こわいっ

しよ、処理  
って…

じっとしていれば  
あとは花蛭が全て  
処理してくれます

チヌチヌ…

ヒッ…  
ヒッ…



尿が途切れると花蛭は速やかに尿管を花卉の内部へ収納し、尿管と入れ替えるようにして

チュルル...  
チュルル...

モゾ...

モゾ...

今度は先端に吸盤の付いた二本の触手を、ひゅるりとジュリアの尻へ伸ばした。

ひっ

次は何なんだ!?

ただの吸盤です

少しお尻を突き出してみましょう

チュム♡

チュム♡

ああ嘘だろ...

まさか...

ブルブル...

さあ、花蛭も濃厚なメインディッシュを待ちわびています

チュム...

チュム...

チュム...

放尿とは比較にならない羞恥の熱が汗ばむジュリアの身体を駆け巡った。

そ

カアアアア

そっちは無理よ...

恥じる事などないのです





ヒイツ  
また管が...

あれは  
便管と

イボ舌  
です

ぬるぬる

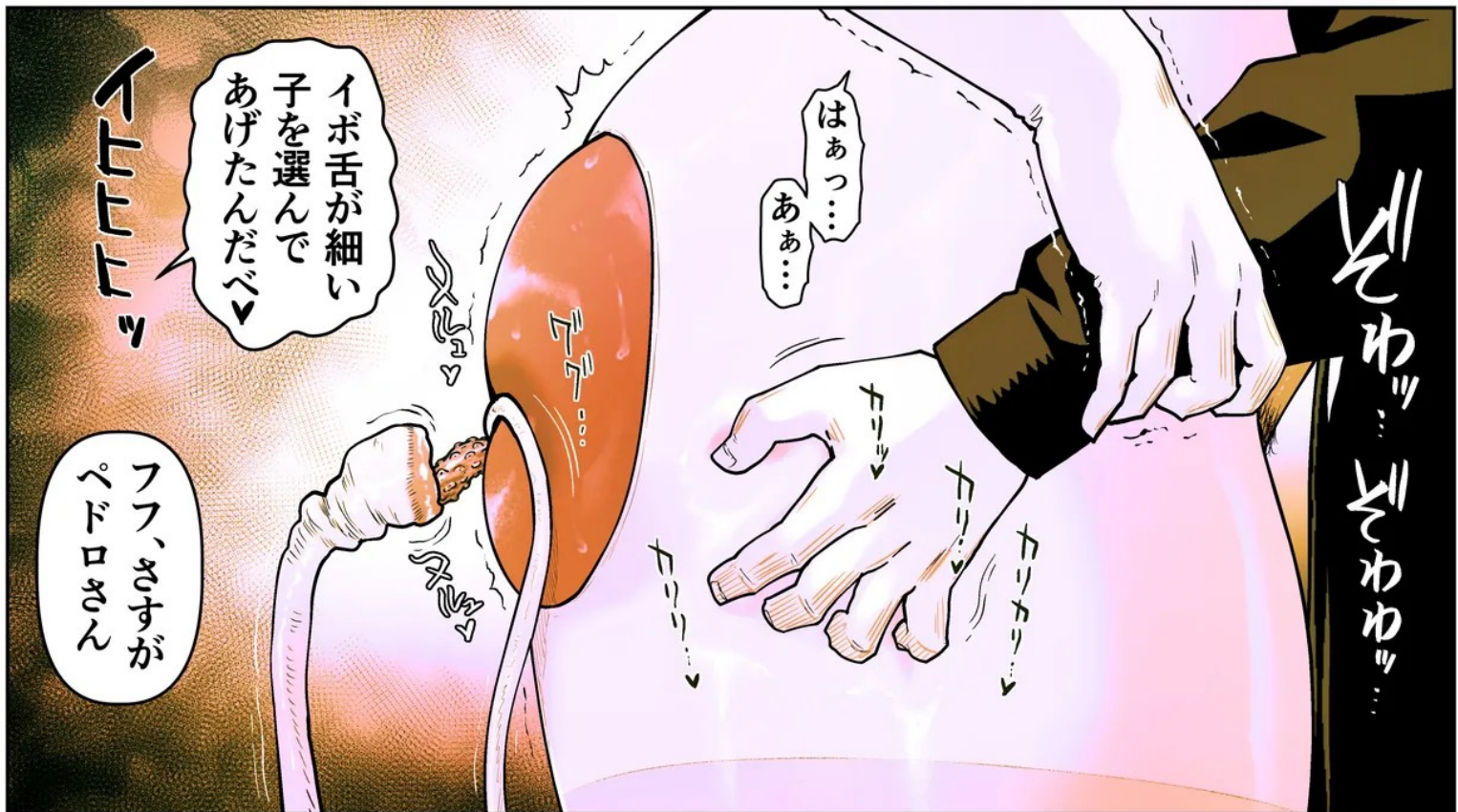
ジュリア



あの舌を肛門に  
抽送しながら  
便を食すのです

ちゅツ...  
抽送才!?

ジュリア様は  
花蛭を使うの  
初めてだべ?  
だから痛く  
ないように



しゅわッ...しゅわッ...

はあッ...  
ああ...

イボ舌が細い  
子を選んで  
あげたんだべ

フフ、さすが  
パドローさん



...でも  
じきに  
細い舌では  
物足りなく  
なりますよ

...え?

ジュリア

花蛭は、おぞましい  
イボ舌を直腸内へ  
差し入れると同時に

尻肉を押し広げて  
いた吸盤を剥ぎ取り

ぶ厚い肉ヒダで  
肛門を覆い隠す  
ように密着した。

ああ…

肛門周辺を完全に  
密閉する肉ヒダは

不快さよりむしろ  
恥部が覆われる安堵を  
ジュリアに与えた。

おお…  
けっこう  
吸い付く  
んだな…

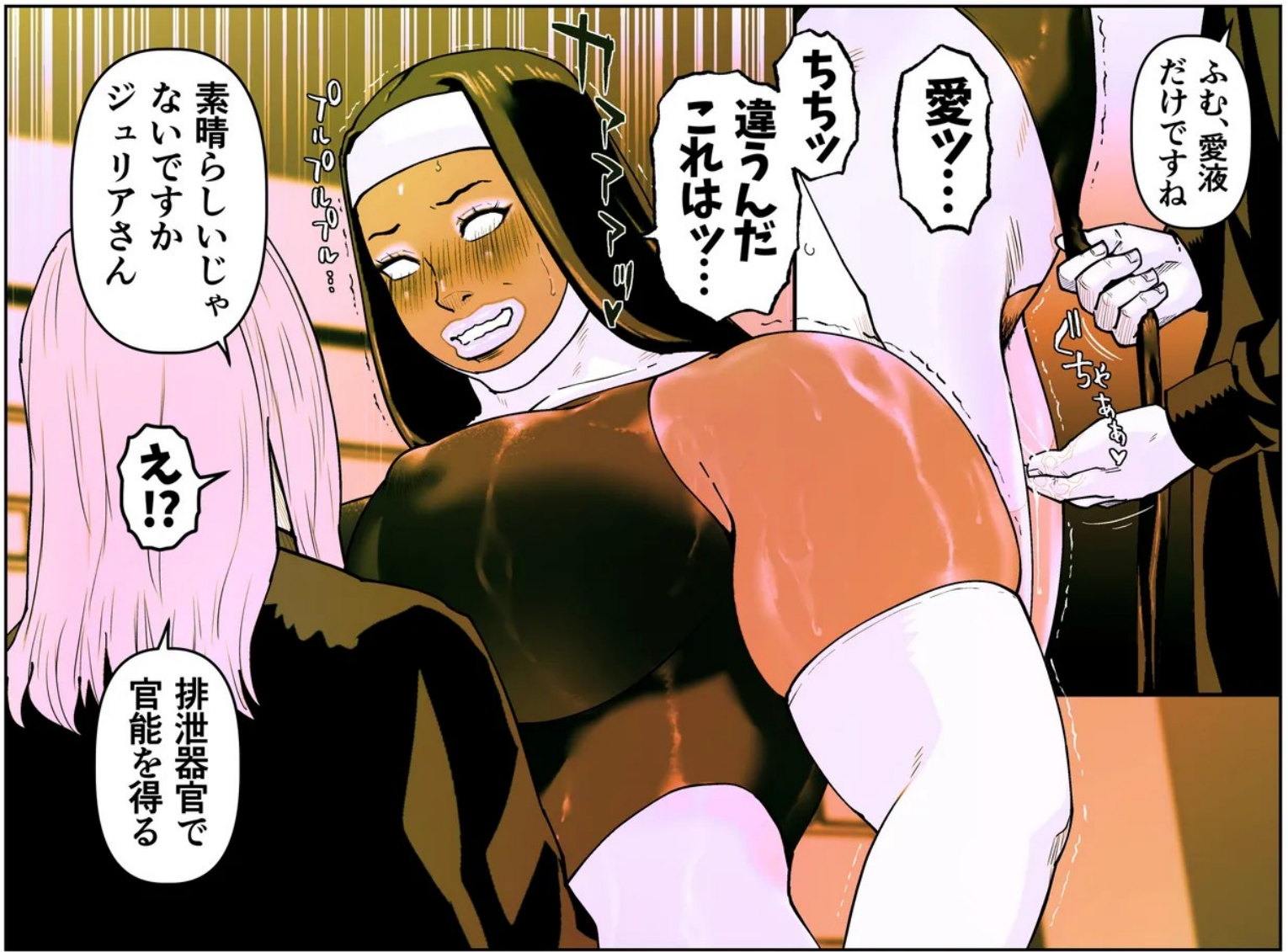
ふわふわ

ぬちゅん

ぐんぐん







ふむ、愛液  
だけですね

愛ツ…

ちちツ

違うんだ  
これはツ…

カチカチカチカチ

素晴らしいじゃ  
ないですか  
ジュリアさん

え!?

排泄器官で  
官能を得る



素質?

私に肛門で  
感じる素質が  
あるだど?

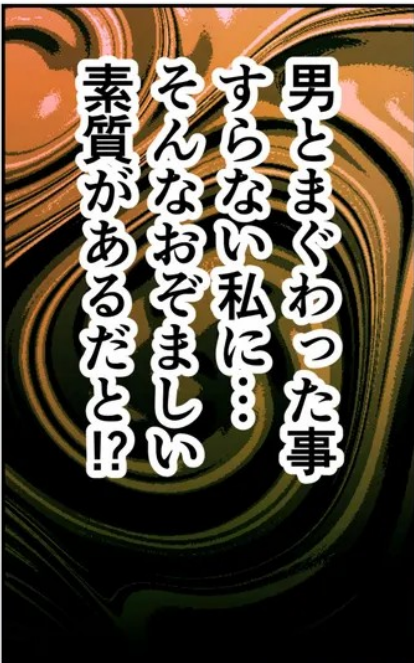


それは人間の  
最も原初的な  
悦楽であり…

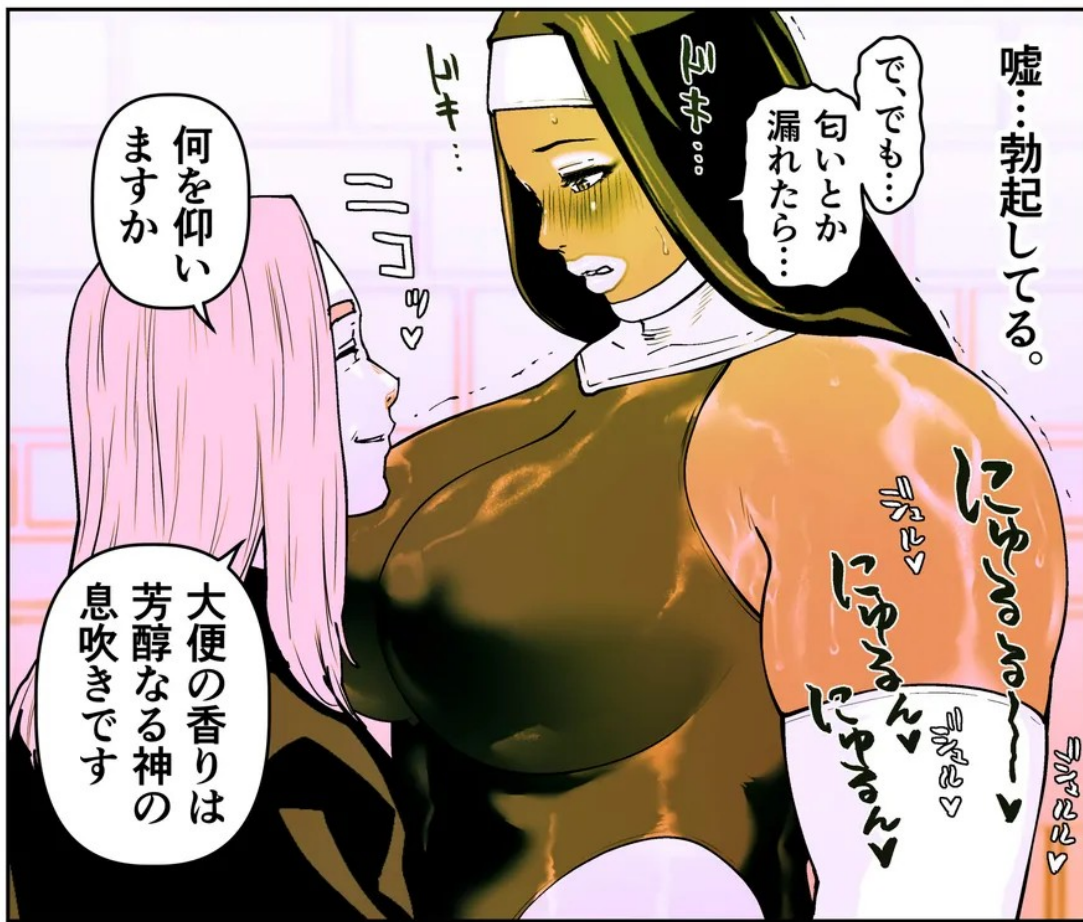
ベルゼの聖女に  
求められる  
肉体的素質の  
ひとつなのです



おお…



男とまぐわった事  
すらない私に…  
そんなおぞましい  
素質があるだど!!



嘘…勃起してる。

で、でも…  
匂いとか  
漏れたら…

いんらん…

いんらん…

何を仰い  
ますか

大便の香りは  
芳醇なる神の  
息吹きです



さあ

ゆっくり息み  
ましようか…

えっ？えっ？

……えっ？

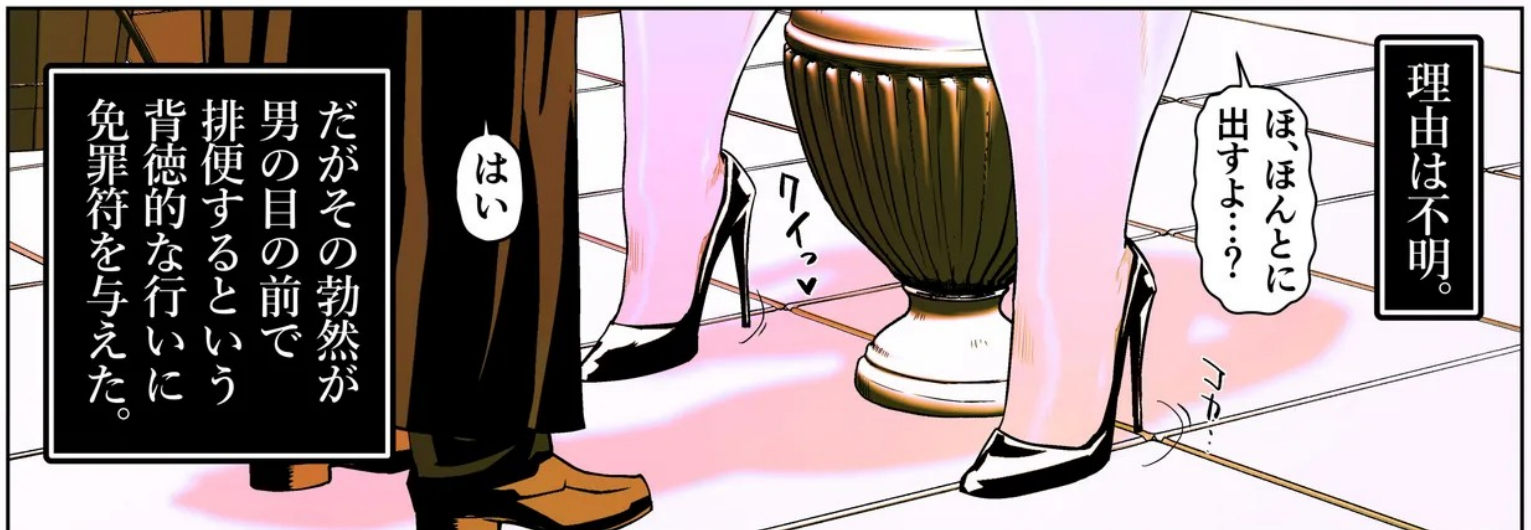


花蛭もあなたの  
排便する意志に  
反応して

さらに甘美に  
うごめいて  
くれるでしょう

ぶっ  
な、何だよ  
それえ…

神父の股間が熱く  
脈打っているのを  
ジュリアは密かに  
感じていた。



理由は不明。

ほ、ほんとに  
出すよ…？

はい

だがその勃然が  
男の目の前で  
排便するという  
背徳的な行いに  
免罪符を与えた。

ああ駄目…  
すぐでそう

ふふ…  
楽しみだ



ええ〜?

ムムム…

クワン…

フン…

「排便の意志」を  
察知した花蛭は

ググ…

隆起する輪郭を  
ねぶるように

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

さらに卑猥な  
抽送を始めた。

いぢゅ♡  
クワン…

くう…

痛みは  
一切なく

くぬ〜♡  
くぬ〜♡

な…

何なんだ…

この生き物  
はあ…あ…

イボ舌はジュリアの  
息みに同調しながら  
便意を促すように  
甘くうごめいた。

あ、あまり中で  
動かれると…

出しに  
くいよ…

大丈夫

いぢゅ♡  
クワン…

便の先端で  
舌を押し  
出しながら

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

いぢゅ♡  
クワン…

ゆっくり  
気張り  
ましよう

キュ…♡

ああ…

糞で…舌を  
押し出す…

やがて便管の薄い皮膜の中を  
太ましい糞塊が下降を始めた。

ふうー…

や、やっと  
出てきた…

ええ

音で分かり  
ますね

くぐもった排泄音と  
糞塊をかき回す  
汚らしい抽送音が

うう…

音が嫌あ…

尻の谷間で淫猥な  
ハーモニ―を奏で  
ジュリアの羞恥を  
さらに煽り立てた。



挿入と排泄…  
相反する圧力が  
張り詰めた  
括約筋のフチで  
複雑に絡み合い

メモッ

メモッ

おオ…

メモッ

モリッ…

追い打ちをかけるように濃厚な臭気が立ち込める。

ああ…  
素晴らしい

先端のゴツゴツした糞塊を出し終わるとせきを切ったように粘り気のある便意が押し寄せてきた。

残りは一気に出しちゃいましょうか

一気に…

ウズ…

嫌な酸味もなく

こつてりとした健康的な香りだ

ふっ…

イボ舌は粘液をまき散らしながら直腸の糞沼の中をさらにねっとりとし力強くうねり回り

ぬるぬる

ぬるぬる

さ、昨晚いいもの

食わせてもらったからかな？

はは

ジュリアは一刻も早くその泥濘から逃れるため下腹部に力を込めた…

ジュルル



A muscular woman with long blue hair, wearing a blue bodysuit and purple leggings. She has a white headband and is looking towards the right.

## ジュリア Julia

年齢：28歳

性別：女性

出身：ジャングル奥地の村

かつて「灼炎のジュリア」と呼ばれた傭兵団長。血気盛んな盗賊や下層階級の男たちを率い諸国の戦争に介入しては莫大な報酬を獲得しそれらを貧しい人々へ分け与えていた。野蛮な戦闘部族という出自に劣等感を抱いている。ぶ厚い筋肉の上にぶ厚い贅肉が乗ったはち切れんばかりのダイナマイト肉弾ボディー。好戦的で勝気な性格だが、押しに弱くマゾヒスティックな一面も併せ持つ。人生を見つめ直す旅の道中でミゲル神父と出会いおぞましいスカトロ信仰にのめりこんでいく。

A man with long blonde hair, wearing a black high-collared shirt, looking slightly to the right.

## ミゲル Miguel

年齢：35歳

性別：男性

出身：トラロク村

蠅の王を信仰する異端宗派の神父の息子として生まれた。毎晩汚物まみれで肛門性交する両親を軽蔑していたが次第にミゲル自身も肛門と汚穢に倒錯していった。両親が死去した後は一人で教会を切り盛りしている。彼の優しさに惹かれシスターを願い出る女性が度々現れるもあまりにおぞましい信仰の実態に全員裸足で逃げ出してしまう。

# ■ベルゼ信仰

腐敗と再生を司る「蠅の王ベルゼ」を崇める土着宗教。  
聖女が食を摂り、それらを糞尿として還す過程を  
「生命の循環」の象徴と見なす。

『ベルゼ聖典』第四章「聖糞の章」より

「汝、食を受けて、土に還す  
いずれも生命の循環なり  
腐敗は息吹き、穢れは賛歌に  
渦巻く糞は黄金の祝福  
ああベルゼ、蠅の王  
腐りて香れ、腐敗の花よー」



# ■修道服



ゴム♡



ボディーラインを強調する  
ゴム素材の紺碧の法衣

ゴム♡



ヌル♡

希少な白い沼ウナギの皮で作られた  
艶やかな光沢白タイツ(パンテホ)。  
太陽光を浴びるとさらに光沢が増す。

高さ15センチの  
ピンヒール(ピントゥー)



恥部が完全に露出する扇情的な修道服は  
村人(特に女性)からの反感を買いやすく  
度々、教会近辺で排斥運動が起きる。

かむ かむ

ぬはぬは



特殊な酵素を含む胃液により胃袋内の糞尿は常に新鮮な状態を保っている。

## 花蛭



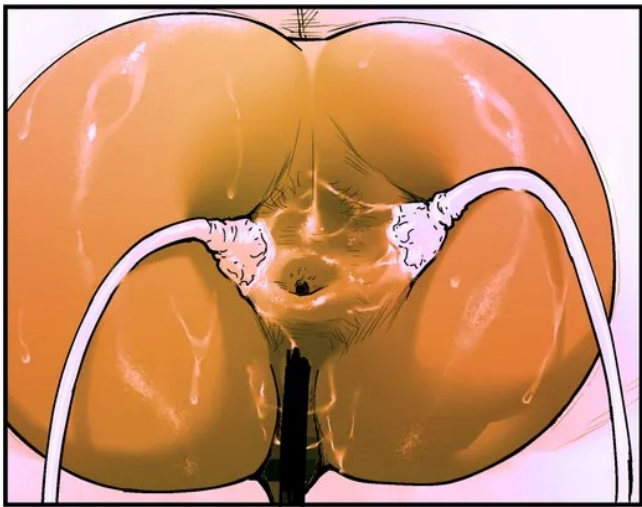
淀んだ沼地に生息する謎の軟体生物。哺乳類の尿道や肛門に管を伸ばし対象の排泄物をすすり食べる。その特性により古くからベルゼの聖女に「生きた便器」として重宝されてきた。有害な病原体を多数持っているが聖水壺の中で繁殖させることにより完全に無毒化する。公衆便所より清潔。



### 尿管



利尿作用のある粘液を分泌する突起で尿道をチロチロ刺激する。



### 便管



二本の触手で尻たぶを広げイボ舌を直腸に挿入した後柔らかな肉ヒダで肛門周りにぴったりと密着する。イボ舌をゆっくり抽送しながら対象の便意を促す。